

ドイツ連邦食料・農業省 最新農林漁業情報  
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft  
NO 8  
2018・6・23

1 安定した農業・食料業のため輸出をより多く奨励(2018・6・14)

一第8回農業・食料業国際経済デーの開催一

この催しの開催に際して連邦食料・農業大臣ウレックナーが、自らの開会挨拶で説明した：500 万人以上の人々が、農業一食料業の分野で働いている。これはドイツにおける全就業者の 13%に相当する。この人たちは、農業一食料業産物の 1/3 の輸出に貢献している。そして昨年の国際的な情勢がまさに、単純でないにも拘わらず、輸出が上昇傾向にある。ドイツの加工食品単独で第3規模の工業部門であり、同時にドイツ経済の安定した「礎」となっている。

その際、我々の農業一食料工業は、第一級産物の第三規模の輸出業者であるのみならず、環境一家畜保護についても基準を設定している。私の省は、例えば輸出奨励プログラムの分野における、企業取引旅行を提供するといった、専門分野で企業を支援している。多くの市場研究、情報イベント、見本市そして講習会もまた、これに貢献している。

背 景：

農業一食料業国際経済デーは 2 年に 1 回開催され、連邦食料・農業省、外務省並びにドイツ連邦食品工業連盟 (BVE) と共同で実施している。この目的は、政治、経済そして行政の専門家の知見、経験の集中的な交流である。4つの国のフォーラム、つまり中国、フランス、インドネシア並びにメキシコでの政治状況、貿易構造、販売のチャンス並びにドイツ企業の具体的な市場参入について、その可能性に関して意見交流を行う。

さらに 2 つの専門フォーラム、つまりテーマ「輸出に際しての獣医学上の問題」と「供給チェーンリスク分析と苦情メカニズムにおける人権」に関して、専門家が議論した。

## 2 EUレベルでの家畜の福祉表示を（2018・6・8）

### ークレックナー大臣とEU特別委員との会談ー

ドイツ連邦食料・農業大臣が、EU健康と食料の安全特別委員 Andriukaitis と、ベルリンで昨日（6月7日）にEU域内の家畜輸送とアフリカ豚コレラについて会談した。これに関してクレックナー大臣が説明した：”私と特別委員は、私の心のありそしてEUレベルで、広範に前進させたいテーマについて懇談した。我々は家畜の福祉の意味において、特に家畜の輸送に際しての家畜保護について意見交換した。

その際、加盟国を支援するために、EU特別委員は多くのことができると、私は思う。つまり、それは外国への家畜輸送に際して、動物保護のための障害物を除去することである。例えば、私はEU域内の輸送路線に沿って、水、餌の供給施設の設置、または世界動物保護機関（OIE）の輸送規則との調和を考えている。私はアフリカ豚コレラ（ASP）への視点で、全ての加盟国がこれとの闘いと事前予防のために、貢献しなければならないと特別委員と合意した。

ASPは、我々農業者に経営存続上で重要な障害をもたらす。我々は、この病気を共同で無条件に避けねばならない。その際、ドイツは既に長期間にわたって予防対策を講じてきた。我々は、先週閣議で新しい動物感染症法を決定した。これによって病気が発生した場合、迅速にそして全く目的に合致した対策を、講ずることができる。しかし、各加盟国が自らの責任を果たさねばならない。我々はEU委員会が、強力に調整の役割を果たさねばならないと考える。”

## 3 農村の活力センターは革新を必要とする（2018・6・8）

### ー我々は農業のデジタル化を促進するー

農村地域においてデジタル化のチャンスをもっと大いに活用すべきである。連邦食料・農業大臣が今日（6月8日）、モットー「我々は農村デジタル化」のもとに、デジタル会議を開催した。これは連邦食料・農業省がドイツ郡議会連盟（GLT）、フラウンホーフ研究所（IEGE 実験的ソフト研究所）とともに、開催したものである。これについてクレックナー大臣が説明した：”農村地域は我々の国の活力センターである。同時にこのセンターの力は、インフラ構造を適合しながらさらに伸ばすことができる。これは、公共の近距離交通、医療サービス提供そして迅速なインターネットと結びつく。”

農村地域は、これらと切り離してはならない。それ故に我々は、ドイツ全域で健康と介護、教育と高度な専門知識、経済と労働から移動の可能性まで、多様なプロジェクトを支援する。このため、我々は新しいプロジェクトをスタートさせる。例えば実験畑、つまり農業経営におけるデジタル実験圃場。これはセンチメートルの細密さで仕事をし、その際燃料、肥料、農薬を節減する。搾乳牛の行動に関する IC チップデータを通じて送付された、搾乳ロボットが重要である。しかし、デジタル化は農村地域においてまだまだ重要である。

1 デジタル化はネットワークを意味する。

私の目標は、関係者、構造、行政、経営そして知識をネットワーク化すること。そこから新しい力をくみ出すことである。そのため、我々は新しいモデル計画をスタートさせる。つまり、スマート農村地域に。

2 デジタル化は革新を意味する。

我々は新しい考え方、技術的な問題解決そして賢い頭脳を見分け支援する。そして公表し利用可能とする。「奨励プログラム農村」でもって、デジタル化を支援し、そして農村のための革新的、モデル的な考え方を支援する。

3 デジタル化は知識を意味する。

我々は適用可能な研究を求めている。そして利用可能な知見を必要としている。我々はこの意味において、農村発展研究の連邦プログラムの領域において、「デジタル化の時代における農村地域」でもって奨励している。農村地域におけるデジタル化は、常に街や市町村における効果をもたらし発展するので、我々は農村地域におけるデジタル化のテーマに、集中して研究計画を奨励する。我々は農村の地図でもって農村地域に関するモニタリング手段をつくり、我々の行動の基礎を創り出す。我々はデジタル化の課題解決を緊急に必要とされるところの、手がかりを求めている。農村の地図は委員会の指針であり、また私のためにも生活関係の指針である。

4 デジタル化は教育と専門地域にとって重要である。

我々はデジタル的な適用を特に必要としている。我々は高齢者のためにも、デジタル教育を必要とする。つまり、生活上必要とするデジタル免許証のような。

5 デジタル化は非官僚主義と書類の簡素化にとって重要である。

我々は行政管理のためのデジタル化のチャンスを通じて、対話を必要としている。データ保護とデータ保護上の法的な問題も。現在この分野において私の感じている役に立たないところの、大きな動揺が優勢となっている。

6 デジタル化は仕事の新しい形態にとっても重要である。

我々は CO-Workingspaces(コワーキングスペース 訳注：事務所スペース等を共有しながら、独立した仕事を行う共同ワークスタイル) といった新しい労働形態についても、団体、経済連盟と話し合っている。これは多くの通勤者のために、大きな負担軽減を意味しており、そして現地での経済を強化する。

7 デジタル化は情報伝達を意味する。

我々は街と農村社会との強力な情報交換を望んでいる。適切なネットワークと人間—知識そして製品の交流の直接的な形態である。

我々の活力センターは革新を必要とする。我々は農村をデジタル化する。そのため、我々は今日、その基礎を創りそして全ての関係者を引き合わせる。ドイツ郡議会会長ラインハートサーガーは説明した：“デジタル化はドイツにおいて農村でも実施されるべきである。まさにここに多くのヒッデン チャンピオン（訳注・通販等で世界をリードする中小企業）とともに、中産階級が移住してくる。

我々はスマート—シティの概念から、脱却しなければならない。デジタル化は他の地域に対するその地域の不利を調整する、奨励可能な新しい生産—販売モデルを可能にする。ドイツ国内 294 郡の半分以上が、行政組織の効率性の向上を期待し、そして住民と経営の能力向上を望んでいる。しかし、デジタル化の提供は、最終的に高い効率のブロードバンドを必要とする。これらの地域に対して、ドイツはより良く対応すべきである。その際、私は二重に説明する。通信用グラスファイバーの無い地域をなくす。”

農村・デジタルー農村発展連邦プログラムの礎石

連邦大臣は、農村デジタル化プログラムから最初のアイデアを表彰し、ウェブサイトを [www.land-digital.org](http://www.land-digital.org) で情報提供する。

今日、2つのプロジェクトが表彰された。

① プロジェクトチーム 有限会社 屋内市場 9

2段階プロジェクトにおいて、15 カ月以内に屋内市場 9 のアナログ地域のアイデアが、小規模経営のためのデジタル直売ープラットフォームに移行させた。この問題解決でもって、ネットでの新しい種類の市場が生じた。これは小規模生産者が、公正な価格でそして確実な買い手を可能とした。並びに高品質な非凡なる産物に、お客を結びつけた。このプラットフォームは例えば街からの刺激によって、農村発展が手本になるように。

② デジタル化 村の中心 ズイーゲン大学ー教育専門分野 町のプランと計画の歴史

プロジェクト・デジタル化 村の中心でもって、アイデンテテイと共同体を形成する村が強化され、新たに活気づく。村の共同体の関心事に係る情報ーコミュニケーション テクノロジーの投入、デジタル技術に支えられた生存のための備えと可動性（移動性）の提供が、プロジェクトの中心に据えられている。社会的な中心とサービス提供の重点としての機能が、弱まっている伝統的な村の中心地は、デジタル化で新しい機能の集中を通じて強化される。

4 農村地域を強化ー森林と木材に関する専門知識センター（2018・6・7）

メクレンブルグーフォアポーメルン州の再生可能原料専門エージェントの組織体：これについて連邦大臣クレックナーが説明した：“森林は大洋と並んで重要なCO<sub>2</sub>ー蓄積者である。これは同様にまた、林業ー木材業における約110万人の就業の場を確保するという、重要な自然及び経済部門でもある。森林は農村の風景とそして動植物のための故郷として、特徴づけられている。同時に森林は、保養のための重要な空間であり、そして我々の文化的なアイデンテテイである。森林はまた、マルチタレントでもある。”

我々は森林専門センターでもって、この分野における重要な課題と専門知識を結びつける。森林の高価値は明らかである。さらに私が間もなく指名する、森林委託者もまた森林の価値に貢献する。農村地域は我々にとって故郷であり、それを強化したい。メクレンブルグーフォアポーマルン州に森林専門センターを設立するという決定でもって、我々はドイツの農村地域における、高度な専門知識を有する就業の場を意識的に創出する。それでもって、連立政権協約の中で合意している地方分権戦略を実践する。農村地域は、我々の国の「力のセンター」である。

## 背 景

連邦食料・農業省は、森林一木材専門知識情報センターでもって、この分野における重要な専門知識を結集する。連邦政府の 2020 森林戦略と 2050 気象保護プランにおいて、持続的な森林管理の問題に対して、より強化された情報とコミュニケーションによって、必要条件を取り上げている。そして同時に違法な木材利用が配慮される。再生可能原料専門センター(FNR)は、2025 年以降奨励プログラムで再生可能な原料に関する連邦プロジェクト担当機関として活動してきた。

これはさらに公開活動を情報の分野で、重要な刺激を与えてきた。この時期において FNR は、森林と木材の分野における強力なエキスパートを養成している。これはサービス業務やボランティア、プロジェクト担当者として、長期間の経験と専門知識に基づいて、経済界や科学界、各州からの代表者への連邦全域の必要なネットワークを通じて活用される。FNR は 2016 年以降、実効性のある課題でもって、ドイツ森林デー並びに木材憲章 2.0 の実施を、委託されている。

2018・6・23 訳

青森中央学院大学

中川 一徹